

□教材・教具 ■学び合い □サプライズ ■ニーズの調整 □その他

1 本時のねらい 4/12 時

(小数) ÷ (小数) の計算の仕方を考えて計算し、説明することができる。 (数学的な考え方)

2 支援の工夫

- ① 自力解決、話し合いの時間の確保
 - ・ 問題把握までの活動をスモールステップで組み、内容に変化をもたせてテンポよく進める。
 - ・ 問題文は印刷したものを用意し、ノートに貼るようにする。「貼る→読む→ラインを引く→前時との違いを考える」の活動の流れを定着させておく。
- ② 自己目標ポイントの設定と振り返り
 - ・ 個に応じた目標を設定し振り返ることで意欲と達成感の確保に努める。
- ③ 考え方(解き方)の共有
 - ・ グループ内での発表を取り入れ、全員に発表の機会を設けることで、自分の考えをもつ必要感をもつことができるようにする。また、少人数の中で安心して伝えたり尋ねたりができるよう、グループは単元を通して変えないようにする。発表ボード上に出された複数の説明を教師が言葉を添えながらつなぐことで、理解をより確かなものとし今後の話し合いで活用できるようにする。
- ④ 視覚的支援
 - ・ 学習に必要なものだけをそろえるため、授業前に机に出すもの(ノート、筆記用具カード)を黒板に掲示しておく。教科書カードは練習問題を解くときに黒板に掲示し、問題のページを記入するようにする。
 - ・ ④カードを随時移動させることで、黒板を見る際の視覚的な支援とする。
 - ・ 学習の流れが分かりやすいように板書とノートのレイアウトを同じにして定着を図る。
- ⑤ ヒントカード
 - ・ 個々のつまづきに対応できるように難易度と着眼点の異なる数種類のものを用意する。
 - ・ 図と式を用いて考えることができるように、図入りのワークシートを使う。

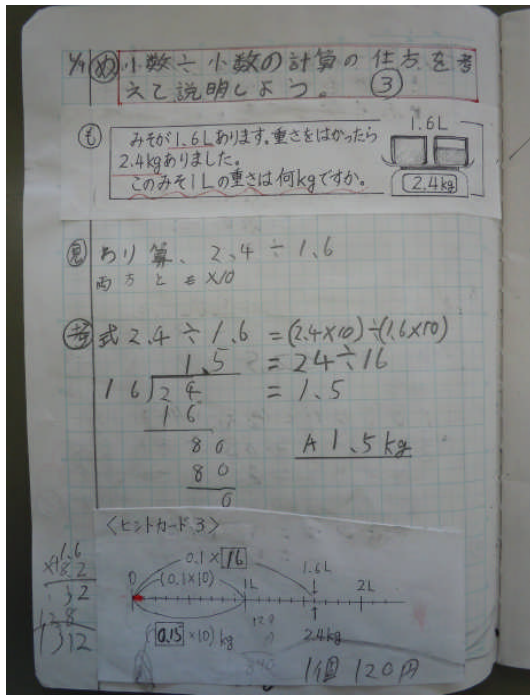
3 考察

- 平素より、児童には自分なりの考えをもち、言葉や図、式などを使ってその考えを伝えることの大切さを意識させてきた。また、筋道を立てて考えるために、「まず」「次に」「それから」「だから(答えは)」などの言葉を表示しながら表現する練習も重ねてきた。

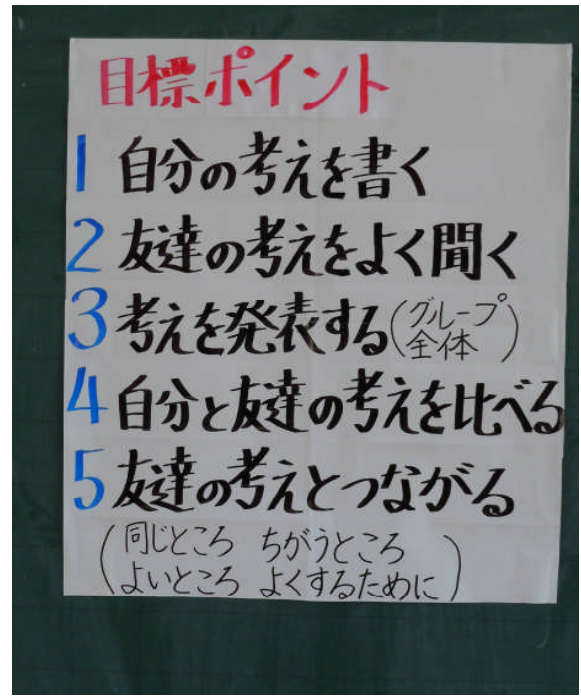
本時でも、(小数) ÷ (小数) の計算の仕方を考えることを通して、小数のわり算の意味やしくみの理解を深め定着させる場を設定した。児童は、既習の(小数) ÷ (整数) や(整数) ÷ (小数) の計算の仕方を活用して、計算の仕方を考えていった。しかし、小数による等分除の意味の理解が視覚的にも難しく、数直線図も理解の手助けにはなりにくかった。計算の仕方の理解、定着を図るためには、包含除の問題から取り扱い、既習の考え方をどれだけ使おうとしているかにポイントを置くべきであった。

表記や音声での表現能力に大きな差をもつ個々の児童に、自分なりに考えて解決する必要感と自信をもたせる手立てとして、ねらいに近づくための段階を踏んだ目標を設定することは効果的であった。本時の学習のめあてを決めたところで自分の目標ポイントを決め、時間の終わりで達成度を自己評価する。毎時間これを繰り返すことで、算数の問題に取り組む姿勢がより積極的になってきたと同時に、目標を高めようとする意欲も感じられるようになっていく。

①問題文の印刷④ノートの形式



②自己目標ポイントの設定



③話し合い (グループ)



③話し合い (全体)



④準備物の掲示



⑤ヒントカード

